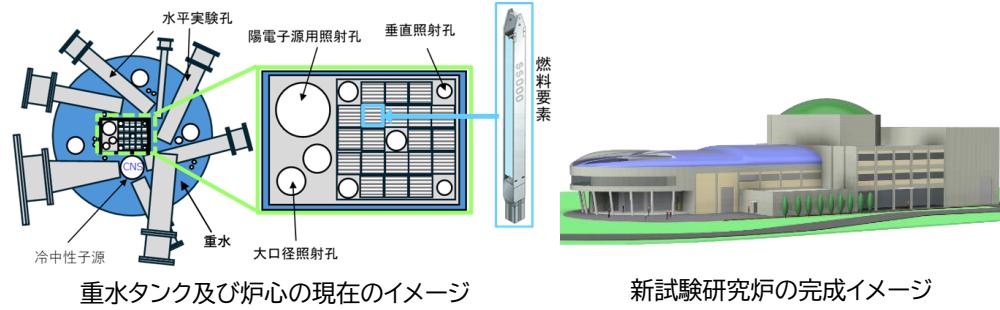


詳細設計の着実な推進

新試験研究炉につきましては、安全性を最優先に、推定活断層の影響を見極めるための地質調査を本年の中心的な取組みとして着実に進めてまいります。

調査は段階的な検討を要しますが、その成果を積み上げることで審査に必要な根拠を充実させてまいります。さらに、建設予定地の決定を待たずに進められる原子炉設備の詳細設計にも取り組んでまいります。

これらの活動状況については、引き続き地域の方にも参画いただいているコンソーシアム会合にて報告し、委員の皆様からのご意見を踏まえて検討を深めてまいります。研究開発や人材育成等の拠点として地域に貢献できる施設の実現を目指し、引き続き検討を進めてまいりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新試験研究炉の完成イメージ



新試験研究炉推進室
室長 村尾 裕之

地元企業や教育・研究機関との連携の輪を広げる

敦賀総合研究開発センター（通称、つるそうけん）では、廃止措置の技術開発、地元企業との連携協力、原子力分野の人材育成に取り組んでいます。

ふくいスマートデコミッショニング技術実証拠点（通称、スマデコ）を活用し、地元企業の廃止措置工事への参入支援を目的とした解体技術研修等を実施するとともに、技術相談や技術交流等の取組みを通じて地元企業との連携強化を進めます。また、レーザー加工技術の研究開発として、今年から本格化する経済産業省受託プロジェクトを企業や研究機関と連携して進め、研究拠点としてのプレゼンス向上に努めてまいります。人材育成については、大学との連携や小中高校のエネルギー教育支援等について、教育現場のニーズに合わせて出前授業等を引き続き実施してまいります。本年も「つるそうけん」をよろしくお願ひいたします。



解体技術研修



教育支援(中学校)

敦賀総合研究開発センター
センター長 宇埜 正美

●本資料に関するお問合せ先●

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 地域共生・広報課

〒914-8585 福井県敦賀市木崎65-20

【TEL】0770-21-5026 【FAX】0770-21-2045

原子力機構ホームページ : <https://www.jaea.go.jp>

敦賀事業本部ホームページ : <https://www.jaea.go.jp/04/turuga/>

発行：2026年1月



「敦賀事業本部からの
お知らせ」のページは
こちらから

[NO.133]



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ



地域の皆様へ

新春を迎えた皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます



敦賀事業本部長（副理事長）林 孝浩



新年明けましておめでとうございます。

脱炭素社会の実現の流れやAI等による電力需要の高まりの中で、世界的に原子力に対する期待が高まっています。わが国でも、昨年策定された第7次エネルギー基本計画において、原子力を最大限活用することが必要不可欠である旨記載されたところです。

こうした中で、当機構は、昨年10月に設立20年を迎えました。これもひとえに、地域の皆様のご理解とご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本年はさらなる飛躍に向けて、原子力の研究開発を通じ、社会への貢献を果たし、新しい未来を切り拓いていくべく、しっかりと業務に取り組んでまいります。安全を第一に「ふげん」「もんじゅ」の廃止措置を着実に進めるとともに、地域振興や人材育成にも貢献する新試験研究炉の設置に向けた取組みを進めてまいります。引き続き、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いします。

敦賀事業本部長代理（理事）近東 正明



新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、「ふげん」では、原子炉周辺機器の解体撤去作業が進むとともに、フランスへの使用済燃料搬出に向けた最初の容器を受け入れました。また「もんじゅ」では、ナトリウム機器の解体に向けた準備として2次メンテナンス冷却系の解体を開始しました。

本年は、「ふげん」使用済燃料搬出に向けた準備を加速するとともに、「もんじゅ」ナトリウム機器の解体に向けた準備を安全最優先で進めてまいります。

新試験研究炉の設置に向けては、コンソーシアム会合などを通じて得られた地域のご意見を踏まえ、地域をはじめ社会に貢献する施設の実現を目指してまいります。また、リサイクルビジネスへの技術的支援を含めた協力を進めてまいります。

本年も、地域の皆様のご理解とご協力を賜りながら、安全第一で事業を着実に進めてまいります。

「ふげん」使用済燃料＆「もんじゅ」ナトリウム搬出準備を加速

敦賀地区の廃止措置を担当しております。敦賀事業本部では、「ふげん」「もんじゅ」の廃止措置の推進、レーザー技術等を用いた廃止措置に係る技術開発や、原子力リサイクルビジネスへの協力を含む地元企業の廃止措置事業への参画などの業務を統括しています。

昨年は「ふげん」の使用済燃料輸送容器の製造を完了し、「もんじゅ」の英國ナトリウム処理設備の建設契約を締結しました。本年は、「ふげん」の2027年度使用済燃料搬出開始、「もんじゅ」の2028年度ナトリウム搬出開始に係る本格準備作業を加速する年です。

「ふげん」と「もんじゅ」の廃止措置完遂に向け、敦賀事業本部として総合力を発揮して、これらの課題を安全第一で一つ一つ着実に進め、地域の皆様の一層の信頼をいただけるよう取り組んでまいります。



「ふげん」使用済燃料搬出に向けた輸送容器の先行搬入の様子



「もんじゅ」ナトリウム搬出に係る英國との2段階目となる個別契約を締結



敦賀事業本部
副本部長 荒井 真伸

より丁寧な分かりやすい情報発信に向けて

敦賀地区の組織を支える役割を担うコーポレート部門として、地域共生、事業管理を担当しております。

本年も使用済燃料の仏国搬出に向けた対応が進む「ふげん」や冷却材ナトリウムの英搬出に向けた対応が進む「もんじゅ」の廃止措置、新試験研究炉の設置に向けた対応状況などについて、地域の皆様によりご理解・興味をもっていただけるよう、広報チーム「あっぷる」などによる分かりやすいコミュニケーション活動（「さいくるミーティング」）の実施、地域イベントへの出展や各種広報誌（敦賀事業本部からのお知らせ他）を通じたきめ細やかな情報発信に引き続き努めてまいります。

なお、「さいくるミーティング」や施設見学のお申込み等につきましては、以下URL又はQRコードなどからご確認いただけますので、よろしくお願ひいたします。

(URL) <https://www.jaea.go.jp/04/turuga/>



「あっぷる」による
さいくるミーティング



広報誌 左:「未来へげんき」、
右:「敦賀事業本部からのお知らせ」



敦賀事業本部
副本部長 木村 正実

敦賀地区の事業の実施にあたっては、安全確保を最優先に、立地地域並びに国民の皆様のご理解をいただきながら進めてまいります。

安全な廃止措置の推進

「もんじゅ」では、ナトリウム機器の解体に向けた準備として、2次メンテナンス冷却系の配管等に付着して残るナトリウムを安定な状態にした後、切断・分解を行い、今後の本格的な解体に向けた技術的知見を蓄積するための作業に着手しました。これらの取組みは、「もんじゅ」の廃止措置を安全かつ安定的に進めるための重要なステップであり、本年も安全を最優先に継続して実施してまいります。

昨年は、燃料交換装置で機器の不具合が発生し、しゃへい体等取出し作業が遅延する結果となり、地域の皆様に大変ご心配をおかけいたしました。現在は、不具合に関する現場調査などの対応を終え、作業開始を目指して安全第一で復旧作業を進めております。私たちは、この状況を重く受け止め、再発防止策を徹底し、安全最優先で全力で取り組みます。

本年も地域の皆様のご理解と信頼にお応えすべく、誠意をもって取り組んでまいります。



2次メンテナンス冷却系
保温設備の撤去作業



燃料交換装置の点検



高速増殖原型炉もんじゅ
所長 出野 利文

安全を徹底し、午年の歩みを確かな成果に

「ふげん」では、昨年までに重量が約30トンの再循環ポンプ4台の解体撤去を完了するなど、廃止措置作業を着々と進めております。また、昨年末には使用済燃料を輸送するための容器(キャスク)1基をフランスから搬入する等、計画に基づいた作業を安全に実施してきました。

午年となる本年も、安全確保を最優先に、原子炉建屋内の大型機器の解体作業を継続するとともに、原子炉本体解体に向けた詳細な検討、使用済燃料のフランスへの搬出に向けた準備等を馬の如く前へ進め、成果をお伝えしてまいります。

引き続き、これらの経験や知見が、他の原子力施設の安全かつ効率的な廃止措置に反映できるよう、「ふげん」の廃止措置事業に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



再循環ポンプの解体状況



輸送容器(キャスク)受入状況
(フランスORANO社製)



新型転換炉原型炉ふげん
所長 水井 宏之